



3つの基本目標ごとに、

**施策**（目標を達成するための方針策）と

**取組**（実際にやること）を紹介するよ。

## 基本目標 I

市内産農産物のファンを増やし、消費を拡大する

### 施策 1 市民が気軽に市内産農産物を購入できる環境の整備



市民の皆さんが、もっと手軽に「まち☆ベジ」を買えるように、いろいろな取組を進めていくよ！



忙しい子育て中の人や働いている人でも、利用しやすい環境をつくっていくよ！



「まち☆ベジ」をもっと食べてもらうために、市民、特に買い物に行く時間がない子育て中の人や働いている人でも購入しやすい環境を整えます。

また、「新鮮・安全・安心」といったまち☆ベジのよさを多くの人にPRするほか、学校給食やお店でまち☆ベジを使う量を増やしていきます。

## 次の取り組みをすすめます

まち☆ベジの  
PR促進



〇〇ページ

まち☆ベジの  
流通促進



〇〇ページ

まち☆ベジの  
活用促進



〇〇ページ

学校給食での  
活用拡大



〇〇ページ

## 施策の達成度をはかる指標

| 指標                      | 2025年度末<br>実績 | 2036年度末<br>目標値 |
|-------------------------|---------------|----------------|
| 1か月に1回以上まち☆ベジを購入する市民の割合 | 21.1%         | 90%            |

## 取組①

# まち☆ベジPR促進事業

## 特に重要な取組



### ◆ 現状・課題

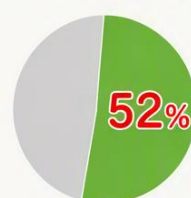
町田市では、市内の農業者さんが生産している野菜・肉や卵・花などの農産物を「まち☆ベジ」と呼んでいます。市では、みなさんに「まち☆ベジ」を知って食べて大好きになってもらうために、情報誌やホームページなどで魅力を伝える活動を行いました。

2025年度に実施した調査では、市立小中学校に通う子どもの保護者のうち約半分に当たる**52%**の人が、このまち☆ベジマークを知っているという結果になりました。

また、市民のみなさんへのアンケートでは、「どこで売っているかを もっと教えてほしい」という意見がたくさんありました。

これからも「まち☆ベジ」をさらにたくさんの人に知ってもらえるよう、PR活動を進めていく必要があります。

まち☆ベジマークを知っている保護者の割合



まち☆ベジ

市立小中学校に通う子どもの  
保護者へのアンケート結果  
(2025年度)

「どこで売っているかを もっと教えてほしい」  
という意見  
市民へのアンケート結果  
(2025年度)



### 広報活動の例



情報誌



ホームページ



SNS

### ◆ 取り組むこと



町田の新鮮で安心安全な  
農産物「まち☆ベジ」を、  
情報誌やSNSでPRします。



子ども関連施設と  
連携企画実施して、  
子どもたちやその保護者に  
向けて、まち☆ベジを  
PRします。



### ◆ スケジュール

|        |                               |  |
|--------|-------------------------------|--|
| 2027年度 | 子ども関連施設と連携企画実施 (1地域)          |  |
| 2028年度 | 農業情報誌発行  子ども関連施設と連携企画実施 (1地域) |  |
| 2029年度 | 子ども関連施設と連携企画実施 (2地域)          |  |
| 2030年度 | 農業情報誌発行  子ども関連施設と連携企画実施 (3地域) |  |
| 2031年度 | 子ども関連施設と連携企画実施 (4地域)          |  |

## 取組②

# まち☆ベジ流通促進事業

## 特に重要な取組



### ◆ 現状・課題

まち☆ベジは、町田市農業協同組合が運営する直売所「アグリハウス」や各農業者の庭先直売所、町田薬師池公園四季彩の杜西園直売所などで販売されています。しかし、販売されている場所がまだまだ少なく、開店時間が限られているため、買い物の時間がなかなか取れない子育て世帯や共働き世帯などが購入しづらい状況です。

2025年度に実施した市民アンケートでは「市内産農産物を購入したことがない」と答えた人が34%と、市民の日常生活の中にまち☆ベジが根付いているとは言えません。

さまざまなライフスタイルの市民が、日常の中でまち☆ベジを気軽に購入できる環境を整えていく必要があります。



### ◆ 取り組むこと

まち☆ベジがもっと手に入りやすくなるように、子ども関連施設を活用します。特に買い物に行く時間がない子育て中の人や働いている人でも、手軽に購入できるような環境を整えていきます。



### ◆ スケジュール

| 2027年度               | 2028年度          | 2029年度          | 2030年度 | 2031年度 |
|----------------------|-----------------|-----------------|--------|--------|
| <br>販売方法の<br>調整・試験実施 | <br>販売環境の<br>整備 | <br>販売環境の<br>整備 | <br>販売 | <br>販売 |
|                      |                 |                 |        |        |

## 取組③

# まち☆ベジ活用促進事業

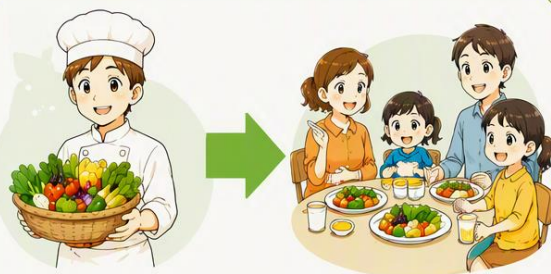


### ◆ 現状・課題

町田市では、まち☆ベジの活用促進のため、まち☆ベジを使用したメニューを提供しているお店や販売しているお店を「まち☆ベジグルメ店」としてPRしています。2026年7月末現在、まち☆ベジグルメ店登録店舗数は45店舗となっています。

市内には多くの飲食店があります。まち☆ベジの消費量を増やすためには、飲食事業者などに対して「まち☆ベジ」をPRし、「まち☆ベジ」を活用してくれるまち☆ベジグルメ店の新規登録店舗を増やしていく必要があります。

### イメージ



まち☆ベジを使う  
お店を増やす

たくさんの人に食べてもらえる

### ◆ 取り組むこと



まち☆ベジをたくさんの人に  
食べてもらえるように、  
まち☆ベジを使うレストランや  
お店（＝まち☆ベジグルメ店）  
を増やします。



### ◆ スケジュール

| 2027年度                         | 2028年度                         | 2029年度                         | 2030年度                                                    | 2031年度                                                    |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
|                                |                                |                                |                                                           |                                                           |
| ● まち☆ベジグルメ店<br>新規登録促進<br>(2店舗) | ● まち☆ベジグルメ店<br>新規登録促進<br>(2店舗) | ● まち☆ベジグルメ店<br>新規登録促進<br>(2店舗) | ● まち☆ベジグルメ店<br>新規登録促進<br>(2店舗)<br>● まち☆ベジグルメ店との<br>連携企画検討 | ● まち☆ベジグルメ店<br>新規登録促進<br>(2店舗)<br>● まち☆ベジグルメ店との<br>連携企画調整 |

## 取組④

# 学校給食 食材供給事業



### ◆ 現状・課題

2025年度に中学校給食センター方式の導入が完了し、市内すべての小学校と中学校において、「まち☆ベジ」を使用した給食が提供されるようになりました。

学校給食は、「まち☆ベジ」の主要な供給先として、地産地消を支える大きな柱となっています。今後は「まち☆ベジ」の供給量を増やし、活用を図っていく必要があります。また、市立小中学校に通う子どもたちに「まち☆ベジ」に興味を持つための絶好の機会となります。「まち☆ベジ」のPRのために、学校給食の場を活かしていく必要があります。

### ◆ 取り組むこと



市立小中学校の給食で、  
まち☆ベジをもっとたくさん  
使えるようにします。  
また、給食を通してまち☆ベジ  
について知ってもらいます。



### ◆ スケジュール

| 2027年度          | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| 学校給食へのまち☆ベジ供給継続 |        |        |        |        |

基本目標Ⅰ 市内産農産物のファンを増やし、消費を拡大する

施策2 市民が農体験を楽しむことができる機会の拡充

「まち☆ベジ」や町田の農業をもっと知って、ファンになってもらうため、収穫など農業を体験できる機会を増やします。直売所でまち☆ベジを販売したり、農業に関するイベントを開いたりして、市民が気軽に農とふれあえる機会を作ります。

| 指標                   | 2025年度末実績 | 2036年度末目標値 |
|----------------------|-----------|------------|
| 農に関わる体験をしたことがある市民の割合 | 46.5%     | 90%        |



取組① 農業体験事業

■現状・課題

2025年度に実施した市民アンケートで市内農業や農産物への関心度に関する質問をしました。「関心がある」と回答した人は95%にのぼり、多くの人が農に関心を持っていることがわかりました。

一方で、2026年度に実施した市民アンケートでは「農に関するイベント等に参加したことがある」と答えた人の割合が〇〇%となっており、「関心があるのに農と触れ合えていない」という状況です。

地産地消を進めていくには、農業者だけでなく、市民の皆さんも「農の担い手」の一員として、地域の農業を共に支えていく意識をはぐくむことが求められています。そのために、イベントや体験事業、食育など、日常の中で農に触れ、農業をより身近に感じられるような機会を作ることが必要です。

■取り組むこと

町田市農業祭や米作り農業体験など、市民が気軽に参加できる農業のイベントを実施します。農業の楽しさを知ってもらい、身近に感じてもらうような機会を増やしていきます。

■スケジュール

| 2027年度                   | 2028年度                   | 2029年度                   | 2030年度                  | 2031年度                  |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ○イベントの実施<br>○農業体験の情報発信強化 | ○イベントの実施<br>○農業体験の情報発信強化 | ○イベントの実施<br>○農業体験の情報発信強化 | ○イベントの実施<br>○新たなイベントの検討 | ○イベントの実施<br>○新たなイベントの調整 |

取組② 体験型農園開設支援事業

■現状・課題

市内には、「市民農園（※）」「農業体験農園」「収穫体験農園」と呼ばれる体験型の農園があります。「市民農園」は、畑の一部の区画を借りて自分の力で野菜などを育てる農園。「農業体験農園」は、畑の一部の区画を借りてプロの農業者の指導を受けながら年間を通じて栽培を体験する農園。「収穫体験農園」は、ブルーベリー狩りやイチゴ狩りなど農業者が育てた作物の収穫を体験できる農園のことです。

市民の皆さんに、もっと気軽に農に触れてもらうため、それぞれが希望する“農への関わり度”にあわせた体験メニューが求められてることから、これらの体験型農園の開設を支援していく必要があります。また、体験型農園を開設することは、市内農地を農地として活用することにもつながるため、農地保全の観点からも進めていく必要があります。

（※）ここでいう市民農園は、農業者が開設する市民農園（＝農家開設型市民農園）を指します。

■取り組むこと

農業者が、市民農園や収穫体験農園、農業体験農園などを開設することを支援します。市民が毎日の生活の中で、農業をいつでも身近に感じられるような暮らしを目指します。

■スケジュール

| 2027年度     | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| 体験型農園の開設支援 |        |        |        |        |

取組③ ふるさと農具館事業

■現状・課題

町田市ふるさと農具館は、多くの人に町田の農業を身近に感じていただけるよう、市内の農家で実際に使われていた道具の展示や小学校の社会科見学の受け入れ、裏手の畑で栽培される菜の花から取れる「なたね」を使用した油しぼりの実演を行っています。

年間の来館者数は減少傾向が続いているため、体験型コンテンツの導入や団体見学の誘致など、来館者を増やすための取組が必要です。

また、ふるさと農具館は町田薬師池公園四季彩の杜北園内に位置しており、今後は四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方などを検討する必要があります。

■取り組むこと

ふるさと農具館の展示や体験で町田の農業をもっと知ってもらい、興味を広めます。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、これからどんな施設が必要か考えていきます。

■スケジュール

| 2027年度                           | 2028年度                           | 2029年度          | 2030年度         | 2031年度          |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|
| ○来館者増加に向けた取組の検討<br>○次期指定管理に向けた検討 | ○来館者増加に向けた取組の調整<br>○次期指定管理に向けた検討 | ○来館者増加に向けた取組の実施 | 来館者増加に向けた取組の実施 | 来館者増加に向けた取組の見直し |

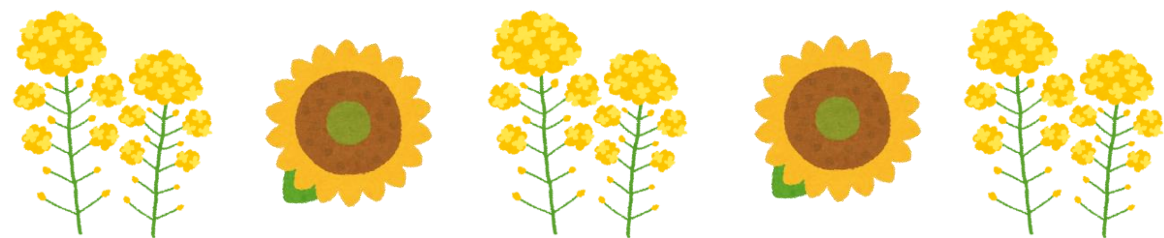
取組④ 七国山景観作物協定事業

■ 現状・課題

来訪者に農の風景を楽しんでもらえるよう、地元の農家組合と協定を結び、七国山地区で景観作物（景色をきれいにするために育てている植物）として菜の花、ひまわり、そばの花を栽培しています。

市内の農地が減っていることで、農業に触れる機会だけでなく、農業を見る場もだんだんと減っています。

“見る”農を体験できる貴重な場として、昔から続く農の風景を維持していく必要があります。



■ 取り組むこと

季節に合わせて景観作物を育てます。訪れる人に畑の風景を楽しんでもらうとともに、昔から続く町田の農業の風景を大切に守っていきます。

■ スケジュール

| 2027年度  | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 景観作物の栽培 |        |        |        |        |

【コラム】農ある暮らしのモデル地区  
農の風景育成地区とは？

○○○○○○○○  
○○○○○○○○

基本目標Ⅱ 市内農業の生産を拡大し、収益を高める

施策1 安全安心な農産物の安定的生産の支援

「まち☆ベジ」をたくさんの市民に届けるために、ビニールハウスなどの施設整備やスマート農業の導入など、農業者が一年中安定して農産物を生産できる環境を整えます。また、農業で稼いでいくための見本となる計画を作ったり、農業者のグループ内で機械・機器を共有したり、農業者が効率よく稼ぎながら生産量を増やしていく方法を検討します。

| 指標                      | 2025年度末実績              | 2036年度末目標値        |
|-------------------------|------------------------|-------------------|
| ＪＡ町田市農産物直売所「アグリハウス」の売上額 | 約244,381千円<br>(2024年度) | 約〇〇千円<br>(2035年度) |



取組① 農業生産基盤強化促進事業【重点】

■現状・課題

町田の農業は生産者と消費者の距離が近いという都市型農業の利点を生かし、さまざまな農産物を少しずつ生産する“少量多品目栽培”を主流としています。栽培形態としては露地栽培が多い傾向です。

市内の農業産出額を見ると、2023年度は18.2億円で、10年前から0.9億円減少しています。背景には、担い手や農地の減少が影響していると考えられますが、今後も農業経営を続けていくために、これらに負けない高い生産性を確保することが求められています。

作業の効率化や省力化、生産性向上に資する施設整備や機械の導入支援など、市内農業者が安定的に農産物を生産していける環境を整えていく必要があります。

■取り組むこと

まち☆ベジをたくさん作るために、農業者が建物や機械を新しくする支援をします。また、コンピュータなどの最新技術を使って、農業者が少ない力や時間で無駄なく仕事ができるような仕組みを取り入れる支援をします。

■スケジュール

| 2027年度    | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 施設設備の導入支援 |        |        |        |        |

取組② 堆肥流通促進事業

■ 現状・課題

2022年7月、環境負荷低減を図り、環境と調和した持続的な食料システム確立を目指す「環境と調和のとれた食料システム確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（通称：みどりの食料システム法）」が施行されました。東京都でも、生産から消費までの環境負荷低減に関する取組を進めていて、化学肥料の使用量削減と堆肥の活用もその取組の一つです。

町田市では、畜産農家減少に伴う供給堆肥量の減少や堆肥を使う農業者の減少により、年々減少傾向にあります。安全・安心で環境にやさしい農業を支援するため、堆肥を活用する取組を進めていく必要があります。

■ 取り組むこと

市内で牛や豚、鶏を育てる農業者（＝畜産農家）が作った堆肥を購入する経費を補助します。多くの農業者が市内産堆肥を使えるようにして、安心して自然にもやさしい野菜作りに取り組む農業者を支援します。

■ スケジュール

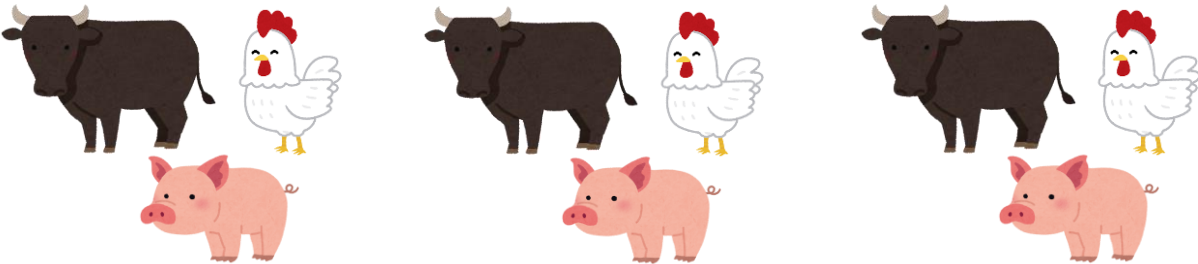
| 2027年度     | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| 市内産堆肥の活用支援 |        |        |        |        |

取組③ 伝染病予防事業

■ 現状・課題

市内では、牛や豚、鶏などの畜産農業者がいます。畜産業を営む中で、とても重要なのが防疫です。家畜伝染病が発生すると経営に大きな打撃を与えるだけでなく、地域社会にも影響が及びます。畜舎を保って家畜伝染病の発生を防ぎ、蔓延させないことが非常に重要です。

良好な畜産環境を整えるために、畜舎の衛生管理や家畜伝染病の防疫を適切に行っていけるよう支援する必要があります。



■ 取り組むこと

牛や豚、鶏の小屋をきれいにするなど、動物が病気にならないように工夫して安全でおいしいお肉や卵を作っている畜産農家を支援します。

■ スケジュール

| 2027年度  | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 伝染病予防支援 |        |        |        |        |

取組④ 獣害防止対策事業

■現状・課題

猟友会や町田市農業協同組合などの関係団体と連携し、農地への侵入を防ぐためにわなを設置してアライグマやハクビシンなどの加害獣の捕獲・駆除を行っていますが、変わらず被害は発生しています。獣害は、農作物が食べられたり畑が踏み荒らされることで農業収入が減少するほか、病気を広めるなど地域や生活へも悪影響を及ぼします。

安定的に農産物を生産していくために、引き続き獣害対策を行っていく必要があります。



■取り組むこと

関係団体と連携して、農地などにわなを置き、野菜や果物を食べたり畑を荒らしたりする動物をつかまえます。こうして農業者が作った農産物を守ります。

■スケジュール

| 2027年度   | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 獣害防止対策支援 |        |        |        |        |

【コラム】これからの農業のスタンダード！？  
スマート農業とは？

○○○○○○○○  
○○○○○○○○

基本目標Ⅱ 市内農業の収益を高め、生産を拡大する

施策2 新たな担い手の育成・支援

「まち☆ベジ」の生産量を増やすために、農業に携わる「担い手」を増やしていく必要があります。農業後継者や新規就農者だけでなく、援農ボランティア、農業以外の仕事をしている事業者などの幅広い主体を、町田の農業を盛り上げていく新たな担い手として考えて、育成・支援していきます。

| 指標       | 2025年度末<br>実績                              | 2036年度末<br>目標値      |
|----------|--------------------------------------------|---------------------|
| 新たな担い手の数 | 新規就農者【※】<br>3名<br>援農ボランティア<br>10名<br>(単年度) | 30名<br>100名<br>(累計) |

※ここでいう「新規就農者」とは、町田市農業研修事業を修了して新規就農した方、東京農業アカデミーを修了して新規就農した方、農業後継者として就農した方、市内農業者のもとで雇用労働者として農業に従事した後に就農した方を指します。



取組① 担い手育成事業【重点】

■ 現状・課題

市内総農家数は減少が続いており、2020年は659戸と2015年からの5年間で190戸減少しました。市内農業者へのアンケートで、「農地の維持・管理」「労働力不足」「後継者がいないこと」が農業経営上の大きな課題であることがわかりました。2020年の市内農業者の平均年齢は69.3歳と2015年よりも2.3歳上昇していて、高齢化や後継者不足のため、生産量を減らしたり、農地を縮小したりする農業者も少なくありません。

市では、新規就農者の輩出を目的とした「町田市農業研修事業」や、農業者のもとで収穫などの農作業を行う「援農ボランティア育成事業」を実施しています。

労働力や後継者を確保し、町田の農業を次世代につないでいくために、新規就農者や援農ボランティアなどの農の新たな担い手の育成し、定着させる仕組みが必要です。

■ 取り組むこと

新しく農業者になりたい人に向けた研修や、農業者を助けるボランティアになりたい人に向けた研修を実施して、これからの町田の農業を支えていく担い手を増やしていきます。

■ スケジュール

| 2027年度                    | 2028年度                                   | 2029年度                       | 2030年度                    | 2031年度                    |
|---------------------------|------------------------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| ○研修事業の実施<br>○援農ボランティア育成支援 | ○研修事業の実施<br>○研修事業内容の見直し<br>○援農ボランティア育成支援 | ○新たな研修事業の実施<br>○援農ボランティア育成支援 | ○研修事業の実施<br>○援農ボランティア育成支援 | ○研修事業の実施<br>○援農ボランティア育成支援 |

取組② 異業種・異分野連携事業

■ 現状・課題

農業は、福祉や観光、商業、教育、健康、環境など、さまざま分野との親和性が高い業種です。特に福祉分野との連携は「農福連携」と呼ばれ、障がいのある方社会参画と農業の労働力確保・農地活用を両立する取組として注目されています。

農業以外の分野や業種と連携することで、農業の新たな担い手が確保できることが大きな利点として挙げられますが、連携によって生まれるストーリーが農産物の価値を高め、ブランド力を強化することも見込めます。

新たな担い手を確保し、新たな価値を生み出していくために、異業種・異分野との連携を支援していくことが必要です。

■ 取り組むこと

農業の新たな担い手を増やし、まち☆ベジのよさや価値を高めるために、福祉や観光、商業、教育、環境など、さまざまな業種や分野と連携します。

■ スケジュール

| 2027年度      | 2028年度      | 2029年度      | 2030年度                     | 2031年度                       |
|-------------|-------------|-------------|----------------------------|------------------------------|
| ○連携に関する相談支援 | ○連携に関する相談支援 | ○連携に関する相談支援 | ○連携に関する相談支援<br>○連携に関する調査実施 | ○連携に関する相談支援<br>○新たな連携支援体制の検討 |

【コラム】東京都内の市区町村で唯一！ 農業研修事業

○○○○○○○○  
○○○○○○○○

基本目標Ⅲ 農業を続ける環境をまもる

施策 1 市内農地の維持・活用

農業者の高齢化や担い手が不足していることから、農業をする人が減って、荒れて使われなくなった農地が増えています。農地を守るために、市民農園や体験農園を開設したり、新たな担い手へ農地を貸し出したり、今ある農地をこれからも使い続けられるようにしていきます。

| 指標        | 2025年度末実績 | 2036年度末目標値 |
|-----------|-----------|------------|
| 市内の経営耕地面積 | 157ha     | 150ha      |



取組① 農地あっせん事業

■現状・課題

町田で農業を続けていくために、農地を農地として維持していくことは不可欠ですが、市内の経営耕地面積は減少を続けており、2025年は157haと10年前より95ha減少しています。また、認定農業者や認定新規就農者への農地集積率も10年前と比べて減少しています。

これからも町田で農業を続けていくために、高齢化や担い手不足などの理由で所有者自身で耕作できなくなった農地は、耕作拡大意欲のある農業者へ貸し出すなど有効活用を図り、適切に維持・管理していくことが必要です。

■取り組むこと

市街化調整区域において、農地バンク及び担い手バンクへの登録を図り、農地貸借のマッチングを行います。

■スケジュール

| 2027年度  | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| マッチング実施 |        |        |        |        |

取組② 生産緑地貸借促進事業

■ 現状・課題

生産緑地とは、農業と調和した都市環境の保全を目的とする市街化区域内の農地です。生産緑地に指定されると、税制上の優遇を受けることができますが、農地の適正な管理・保全が義務付けられます。

市内の生産緑地は、1990年代をピークに減少傾向が続いています。相続による農地の転用が大きな要因ですが、農業者の高齢化や担い手不足も影響していると考えられます。

これからも生産緑地を残していくために、耕作が難しくなった農地は、耕作拡大意欲のある農業者へ貸すことで、維持・管理をしていくことが必要です。

■ 取り組むこと

生産緑地において、町田市農業協同組合と連携した農地貸借のマッチングを行います。

■ スケジュール

| 2027年度  | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| マッチング実施 |        |        |        |        |

取組③ 体験型農園開設支援事業【再掲】

■ 現状・課題

市内には、「市民農園（※）」「農業体験農園」「収穫体験農園」と呼ばれる体験型の農園があります。「市民農園」は、畑の一部の区画を借りて自分の力で野菜などを育てる農園。「農業体験農園」は、畑の一部の区画を借りてプロの農業者の指導を受けながら年間を通じて栽培を体験する農園。「収穫体験農園」は、ブルーベリー狩りやイチゴ狩りなど農業者が育てた作物の収穫を体験できる農園のことです。

市民の皆さんに、もっと気軽に農に触れるもらうため、それぞれが希望する“農への関わり度”にあわせた体験メニューが求められてることから、これらの体験型農園の開設を支援していく必要があります。また、体験型農園を開設することは、市内農地を農地として活用することにもつながるため、農地保全の観点からも進めていく必要があります。

（※）ここでいう市民農園は、農業者が開設する市民農園（＝農家開設型市民農園）を指します。

■ 取り組むこと

農業者が、市民農園や収穫体験農園、農業体験農園などを開設することを支援します。市民が毎日の生活の中で、農業をいつでも身近に感じられるような暮らしを目指します。

■ スケジュール

| 2027年度     | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| 体験型農園の開設支援 |        |        |        |        |

基本目標Ⅲ 農業を続ける環境をまもる

施策2 遊休農地の解消

農業委員と農地利用最適化推進委員が農地パトロールを行い、市内の農地が適正に使われるように働きかけます。

| 指標                           | 2025年度末<br>実績   | 2036年度末<br>目標値 |
|------------------------------|-----------------|----------------|
| 農地パトロールの結果<br>農地の利用状況が改善した割合 | 81%<br>(2025年度) | 毎年度<br>90%以上   |



取組① 農地パトロール事業

■現状・課題

市内農業者の代表などから構成される“農業委員会”では、農地の貸借に関する許可を出したり、農地が適正に利用されているかをチェックしたりする役割を担っています。

市内農業者の高齢化や担い手不足が進み、手入れをせずに放置される遊休農地が増えています。農業委員会では農地の遊休化を防ぐため、定期的に農地パトロールを行い、耕作できない農地は別の農業者への貸借を促すなど、農地を活用する手立てを一緒に考えていきます。

地域の資源である農地を荒廃させず活用していくために、農地パトロールを継続することが必要です。

■取り組むこと

十分に活用されていない農地について、適正な管理を行うよう指導します。また、耕作できない農地については、農地バンクへの登録を促します。

■スケジュール

| 2027年度  | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 | 2031年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| パトロール実施 |        |        |        |        |